

## 第 24 回 2016 年那覇市文化協会・文化祭

平成 28 年 3 月 25 日(金) (於) 県立博物美術館

### 空手文化部会 演武発表会

演武 2 番目 剛柔流「前里のヌンチャク」野原由將のほらよしまさ

#### ● 型と解説

次は、「古武道」を演武します。

現在では、「空手」と「古武道」は分けて別々の名称で呼ばれていますが、昭和の初め頃までは、「素手」で行う武術も「道具」を用いて行う武術も、両方含めて琉球武術の「手」ティーと呼称されていたようです。

それを言い表している文献があります。

剛柔流の開祖、宮城長順の「琉球拳法唐手道沿革概要」の「唐手（ティー）とは何ぞや」で、「手」ティーについての概要が述べられています。

当時において「唐手」は「手」ティーを意味しています。その文献で、『(手)ティーとは、普段の平和の時には、何も武器を持たずに、素手の徒手空拳でもって、精神(心)と身体を鍛える稽古を継続する。何か事が起こった時や争いが起こった時には、自分の身を護るため、家族を守るために「手」ティーの技術や技を使って、それに立ち向かい問題を解決する。即ち多くの場合には、素手の徒手空拳で以て敵を倒す事を原則とするが、しかし、多人数の暴漢や多くの人を守らなければならない時には、道具を持って応戦することもある。』と述べられている。

「道具を持って応戦する」ここでは、あえて刀や槍などの武器とはいわず、日常使う道具と明記されている。まさに、その道具こそ、棒でありトンフアでありヌンチャクでありエーク等の古武術の道具の数々である。

現代では、「空手」と「古武術」を分けていますが、本来は沖縄の「手(てい)」のなかに「空手」も「古武術」も包含されているものだと「概要」が説明しています。

それでは、古武道を演武します。

ヌンチャク、中国では双節棍とも言いますが、沖縄では馬の口に使う「ムーゲー」が元祖だとも云われています。

「前里のヌンチャク」をご披露します。